

# 海外インターンシップ報告書

木下 愛

鹿児島大学教育学部 家政専修

渡航先：イギリス

## 1. 参加目的

昨年東南アジアやオーストラリア、アメリカ、メキシコ、キューバをバックパッカーとして旅する機会があり、1年間で数えきれない人々に出会ってきた。出会った人々に、わたしは毎回鹿児島のことを話したが、日本といえば東京や京都を知っている人が多く、鹿児島のことを知っている人には1人も出会わなかった。また日本人でも鹿児島に来たことがある人はほとんどいなかった。この事実を知り、わたしは鹿児島が日本国内を含め、世界の人にもっと認知されてほしい！と強く思うようになった。

また、鹿児島を出て生活してみて、自分はあまり鹿児島のことを知らなかったということに気づき、鹿児島の魅力を伝えられるように自分自身が鹿児島のことをもっと知りたいと思うようになった。今回のインターンでは、帰国後にやってみたかったことが詰まっていたので参加したいと思った。今という時間を無駄にせず、いろんなことに挑戦していきたいという気持ちが強く、また、これまで国籍を超えて多くの人に助けられてきた恩を自分もいろんな形で返していきたいと思い参加した。

## 2. 大変だったこと・つらかったこと

イギリスから友達に会いにイタリアへ行く予定だったので、イギリスに着いてから航空券を取り、前日空港泊をして便を待っていた。しかし、わたしが予約していた飛行機は、別の空港から出発するもので、それに気づいたときにはもう間に合わない時間だった。結局飛行機に乗ることができず、友達に会うこともできなかった。わたしは、よくやるべきことを後回しにしたり、しっかりと確認しなかったりすることがあるので今回のような失敗が起こったのだと思う。これからは、社会人になるので、やるべきことは後回しにすることなくすぐ行き、何事もしっかりと確認してから行動するようにしていかなければならないと感じた。

### 3. 楽しかったこと

今回の経験で楽しかったことは数え切れないほどたくさんある。中でも特に楽しかったことは、知らない人と出会って話をするることである。最初は、イギリスへ行くのは今回が初めてだったので、街並みや文化などにも興味があり、それらを見るのがとても楽しみだった。しかし、ロンドンについているいろんな人と出会う中で、楽しみが人と出会うことになっていった。ゲストハウスだけでなく、道端や観光地などあらゆる場所でたくさんの人と出会い、話をした。毎回その人が経験してきたことや人生の話をして、いろんな人生があって、人生を楽しんでいることが伝わってきた。自分が経験をしたことない話や新鮮な分野の話聞くことで、いろんなことに興味を持ち視野が広がるのがとても楽しく、人に会って話を聞かされたときにわくわくした気持ちになった。また、自分の話や日本の話、鹿児島の話をする中で、興味を持ってもらえるのがとてもうれしく、もっと魅力を伝えたいと思った。



### 4. 達成できたこと

積極的に自分から人と関わることを心掛けていたので、たくさんの人と出会い、話をするのができた。日本のことだけでなく鹿児島のことや、お茶の魅力も伝えることができて、鹿児島に行きたいといってくれる人が増えたと思う。

また、来年から小学校の教師になるので、子供に伝えられることを実際に体験したり、学んできたいと思っていたが、美術館や世界遺産の見学、人とのかかわりの中で、たくさん子供たちに伝えたいことが増えた。

## 5. 渡航前と渡航後の自分自身の変化

たくさんの人と出会う中で、いろいろな人に「I like your real smile」「keep your smiling」「your smile makes me really happy」といった言葉をかけてもらった。昨年1年間の海外生活でも日本人を含め、数え切れない人々と出会って、そのたびに言われてきた言葉だった。今回改めて、「笑顔」は自分にとって大切なものだと感じた。これから社会人になって毎日働くことになるが、どんなにつらくても、きついことがあっても、笑顔を忘れず、自分の笑顔で自分だけではなく周りの人も笑顔にできるようにになりたいと思う。



グリニッジ天文台



## 6. 現地での商品の反応

イギリスでは、パッケージ調査と他のお茶を販売している方々へのヒヤリング、池田製茶のお茶の PR を行った。パッケージ調査では、大型スーパーマーケットやコンビニエンスストアなどのお茶を使用した商品を見てきた。日本のように緑茶のみで販売しているものは一つも見かけることはなく、お茶自体のバリエーション3、4種類と少なかったように感じる。お茶の種類もリプトンの桃やマンゴーといったフレーバー付きのもの、ほかのメーカーでも甘い味に加工されてお茶しかなかった。ヒヤリング調査では、台湾とインドからお茶を持ってきてロンドンのマーケットで販売している方々に話を聞いてきた。台湾の方は、台湾のお茶に果物の果汁を加えて甘くしたものを販売していた。ロンドンでは、苦みのあるお茶より、砂糖を加えた甘いお茶が好まれるようである。また、お茶の葉よりも粉末状のものの方が飲みやすく楽なので人気だが、その分コストがかかるということも話していた。インドの方は、インドのお茶に花を加えて香りを楽しむお茶を販売していた。こちらも同様にお茶本来の味ではなく、何かを加えることによってイギリスの方には好まれるということ話を話していた。

実際に出会った方々にお茶を PR する際は、わたしが出会ったどの方々も日本のことがとても好きだと言っており、日本の緑茶に大変興味を持っていた。これまでに日本の緑茶を飲んだことがあるという人は少なく、飲み方を教えると、家で飲むのが楽しみだと言ってくれた。実際に飲んだ人は、少し苦みがあるが、さっぱりしていておいしいと言っていた。



## 7. 商品が現地で広まるためには、どうする必要があるか

上記より、日本のそのままの緑茶は、イギリス人の嗜好からすると苦みが強いと感じてしまう傾向があることが分かる。しかし、健康志向の方が多いので、緑茶の成分をアピールし、体にいいこと、ヘルシーであること、ごはんの際の飲み物として最適であることなどをもっとわかってもらえることができると緑茶を広めることができると考える。

## 8. 自分にとって「働くとは」

わたしにとって働くとは、ただ毎日を淡々と過ごすのではなく、何か目標をもって日々成長することであるとする。また、働く中で一番大切にしたいことは、毎日 **happy** に過ごすことを忘れないことである。昨年 1 年間の海外での生活を終えて日本に帰国した後、就活で忙しい時期が続き、ただ毎日をこなすようになっていた。そんなときに海外にいる友達にそのことを話すと、「頑張ることも大切だけど一番は、毎日 **happy** に過ごすことを忘れないことだよ」と言ってくれた。もし自分がこれまでの経験がなくこの言葉を聞いたら、何も響かなかったかもしれないが、その時の自分にはすっと言葉が入ってきて、元気が出た。また、今回の経験でもいろんな人と話をする中で人生を楽しんでいる人が多く、やるべきことはしっかりやりつつも仕事を楽しめるような余裕をもって毎日を楽しく過ごしていきたいと思った。

## 9. 現地での活動を振り返って感じたこと

わたしは、人と関わって多くのことを吸収して、新しいことに挑戦したり、学んだりすることが好きで、そのように毎日を過ごすことで自分らしくいることができるということを感じた。自分にとって人と関わるということは重要だということに気づいたので、周りにいる人を大切にしたい、これまでいろんな人に助けられてきた優しさを少しずつ返していきたいと思う。今回このような経験ができたのも、支援をしてくださった方々のおかげなので何事にも感謝の気持ちを忘れず、常に挑戦していきたい。

また、これから働く中で、きついことやつらいことがあっても自分を奮い立たせ元気になれるような言葉や景色、友達に出会ったので、この気持ちを忘れずに毎日ワクワクの気持ちを忘れずに過ごしていきたいと思う。

